

部会	分野	キーワード	その理由
1	危機管理	自然災害に備える地区ごとの「タイムライン」の開発と実装化	災害リスクの事前想定が可能な水害に備え、地区ごとのタイムラインに対応する避難場所～復旧・復興の仕組みづくりを、区民協働で進める。
	危機管理	多文化・多言語共生社会における「ピクトグラム」を活用した防災・減災支援ツールの開発と実装化	ストック情報（暗黙知や経験知など知っていることが当然と想定される情報）のギャップや不足が課題となっている外国人住民も、防災・減災の担い手となる様な非言語コミュニケーション手法としてのピクトグラムの開発と実装化が重要である。
	緑 まちづくり 産業	「まちづくり庭園」の社会的仕組みの構築と実装化 (都市農空間の保全・利活用を通じた区民まちづくり事業の創出。農業・福祉・環境・地域教育の連携。)	都市農地（生産緑地）、緑と水のマスタープラン、緑地・公園計画など個別計画を横断・包括する「まちづくり庭園」制度の構築と、それを活かした、選択される住環境と区民まちづくり活動の目標、事業制度の開発、構築が重要である。
	危機管理	安全、安心なまち	基礎自治体として最も大事なことは住民の生命、身体、財産を守ることだから
	まちづくり	交通網の充実	高齢化に伴い、特に南北の交通網の充実が必要ではないか
	防災	事前復興の促進	首都直下地震がより切迫した環境下での構想であることから、耐震化や難燃化あるいは木密解消といった従来の施策に加えて、「被災後」を見据えて、人口流出を最小限に抑えるための考え方を盛り込んでおく必要があるため。
	防災	被災後の生活再建支援の充実（災害ケースマネジメントの導入）	
	防犯	(若者の) 自己過激化対策の促進	近年のグローバルな課題の一つであり、我が国でも秋葉原事件や京アニ事件などで顕在化しているため。
	全般	SDG s の視点から見た現状と今後必要な施策	SDG s のすべてのゴールを区として目指せ、という意味ではありません。
	まちづくり	杉並区が持つ資産の価値向上	現在必要とされ、欠けていることを補っていくことと共に、アンケートからも示されている杉並の特徴的価値をいかに向上させていくかが必要と考えます。
	全般	アンケート結果の分析と取り込み方	一例を挙げれば、まちづくりで、区民・職員共に「安心・安らぎ」を求め、「にぎわい」は下位になっていますが、産業振興といかに整合させるか。等
	産業	地産地消の推進	身近な所で安全・安心な食べ物が作られている都市農業と緊急時の避難場所の重要性。
	まちづくり	安全な町	各自治会において、犯罪の抑止力向上のため、防犯カメラの設置で安全・安心な町づくり。
	危機管理	災害対策におけるICTの活用	公助の取り組みに集中するには、災害時業務の効率化を進めておく必要がある、と考えるため。
	福祉	広い意見の聴取・施策への反映	各障害者団体に属せずに生活されている障害者の方の意見も、共生社会実現には必要と考えるため
	子供	非認知能力の向上	社会の発展に対応するには、発想力が必要であり、その基礎となる非認知能力の向上が不可欠と考えるため
	第1部会 まちづくり	SDG s の関連テーマの取り組み	大きな社会の変革のためには、個人や民間企業、団体だけではできないことに限度がある。国はもちろんのこと杉並区がその地域に合わせた取り組みを支えることが重要と考え、基本構想を構成する大きな柱として分野横断型での議論が必要と考えます。(以下、同じ) 
	第2部会 福祉・医療・健康・環境・コミュニティ	SDG s の関連テーマの取り組み	
	第3部会 子ども・学び・スポーツ・文化	SDG s の関連テーマの取り組み	
	第4部会 協働	SDG s の各分野を繋げる役割としての取り組み	

部会	分野	キーワード	その理由
1	防災	水害の減災対策	近年の水害の激甚化・頻発化に伴い、浸水被害を防ぎ切れないことを想定した減災・避災や迅速復旧への備えが必要であると考えため。
	防災	震災救援所の運営	運営者の高齢化対策や、新型コロナ感染予防のため3密回避を前提とした運営の確立が急務と考えるため。
	まちづくり	公共交通のネットワーク化	MaaSの時代に対応した鉄道とバスや自転車のネットワークにより、マイカーから公共交通へのシフトを止めないことが重要と考えるため。
	危機管理 まちづくり	空き家対策 登記不明者対策	空き家問題や相続登記されない土地の問題が出ている。経済活性化のためには土地の有効活用が必要である。行政による積極的な時効処理や固定資産税滞納処理が必要である。
	まちづくり	交通、道路改良、 自転車、すぎまる 自動車無しの生活	杉並区では南北方向の交通に障害がある。自転車通行帯の確保、ネック箇所の道路改良等を進めて、自転車やすぎまるで区内の各駅を結んで循環できるような施策が必要である。少なくとも区民が区役所に行くのに利用できるようにすべきだ。
	まちづくり	公園、小劇場、文化、コンサート、シリコンバレー効果	新宿、中野区が大劇場を備えるのに対して杉並区は芸術家を育てる意味でも、少人数で無料または安価で利用できる小劇場を多く設けたい。神社の舞台の活用や公園や運動場の一部に野外音楽スペースを作って自由な発表ができるようにしたい。
	防災とまちづくり (安全・安心)	モデル地区における、復旧・復興のトレーニングから、ハード面の取り組みへ	被害を受けても、円滑に復旧・復興するための備えを、モデル地区（例えば、「不燃化促進特定整備地区」など）において、地元住民が主体となって取り組み、その成果からハード面の取り組みを進める。 ※9月17日第2回審議会においても、次のような発言あり。 「発災からのケアプラン」 「復旧・復興の視点が大事」
	まちづくりと産業 (魅力づくり)	鉄道・環八（車、エトライ+）・空港（羽田）の連携とMaaS（Mobility as a Service）・自動運転の活用	行政区域を越えた人の移動と、区内のきめ細やかな移動支援までを、自動運転の技術を踏まえて、セットで考える。
みどり (うるおい)	杉並区の生物多様性地域戦略（大田区、世田谷区、杉並区、練馬区のつながりを重視）づくり	生き物は行政区域の境界を越えている。大田区の国分寺崖線から、練馬区の都市農地までのつながりを意識する。また、減災と生き物の視点から、「グリーンインフラ」の観点も。	

部会	分野	キーワード	その理由
2	福祉・健康	共生 多様性	健康は誰もが望むものであり、良くない状態を「予防」したいと思うものです（例：介護予防、認知症予防）。しかし、地域には必ずしも健康な人ばかりではなく、病気や障がいを持つ人も多く暮らしています。そういった人との共生を考え、多様性を受け入れられるような区になるとよいと考えます。
	福祉・健康	社会的孤立	社会的孤立とは、「家族や地域とほとんど接触がない客観的な状態」と定義されます。一人の時間は誰にでも必要ですが、いざ助けが欲しい時、あるいは助けが必要な状態の時に、社会的に孤立していると適切な関わりが得られません。そういった状態の人が少しでも少なくなればと考えます。
	福祉・健康	活躍	どんな人でも強みや興味を活かして活躍できることは重要です。例えば、高齢者になっても、もっと働きたい人やこれまでの経験を活かしたい人には、就労という活躍の機会が提供されるべきです。
	福祉・医療	地域共生社会づくり	杉並区を的確な区域割に地域包括ケアシステムづくりをすすめる。
	福祉	社会福祉法人	杉並社協及び区内社福法人の連携（連携法人化を含む）をどう進めるか。
	地球温暖化（気候変動）対策	住宅・施設の断熱改修	気候変動に伴い、季節の寒暖差が激化している。室内での熱中症および冬のヒートショックなどの健康リスクを押さえ、快適に暮らすために断熱改修（最新の省エネ基準適合を目的とする改修）が求められる。国の施策は新築が中心だが、既築住宅での改修促進が鍵だ。
	生物多様性	地元在来の植物や動物の保全、外来生物の駆除	身近な植物や動物への関心を高め、保全していくことが重要であると考えため。
	環境教育や農山村との交流	自然体験や農、林、水産業体験など小、中学生の参加できるプログラムや大人も参加できる農山村との交流事業の促進	昨今の東京の一極集中VS地方の人口減、それに伴う里地里山の荒廃、生物多様性の危機の背景には、そもそも自然と触れ合う機会が減り、農業などかつて身近だった一次産業への理解不足がある。それを埋めるため、教育や市民の余暇活動での工夫が必要と考えるため。
	健康	人生100年時代を自分らしく生きる	個人の課題のサポート。 活動・知的趣味・収入を担保できる社会システムの構築
	コミュニティ	誰も取り残さない社会を作る、地域の居場所	自由に誰でもが利用できる居場所を。多世代に渡りそれぞれの世代がその世代を楽しく過ごせる社会
	環境	自然エネルギーの推進とゴミ減量徹底	温暖化による被害削減のため区民ができることを
	医療・福祉	リアルタイム情報・医療福祉情報の一元化	感染症感染拡大時や震災時にも、可能な限り在宅生活を継続できることが重要であると考え、有事に活きる情報共有システムの構築、医療・福祉情報の一元管理を平時より自身でも備えられるしくみづくりが必要と考えるため。
	福祉・コミュニティ	介護離職予防・Wケアサポート	Wケアに陥る世代のサポートを行い介護離職予防、介護人材の確保、虐待防止等を行うことが重要であると考えため。
	医療・福祉・コミュニティ	支援者支援・人生の最終段階へのサポート	誰かを支えようとする人への支援・人生の最終段階への学びや準備を多世代が行い人生100年時代を最期まで暮らし続けられる地域づくりを進めることが重要であると考えため。
	福祉 コミュニティ	共助の充実 地域共生社会の創造	誰もが健やかに暮らしていくうえでは、公助だけでなく共助を充実することが重要と考えるため。
	福祉 コミュニティ	福祉ニーズへの横断的で重層的な支援	複雑化・複合化・（潜在化）している福祉ニーズに対し、コミュニティ形成の観点も含めた包括的な対応と地域住民を巻き込んだ支援体制の構築が重要と考えるため。
	福祉	誰にでもやさしい街	街中に「やさしさ」や「思いやり」のある行動が広がれば、差別をしない「誰にでもやさしい街」に繋がります
	福祉	地域の手に対する専門職（保健師・看護師、社会福祉士）の関与	個別支援避難プラン作成に関して専門職が強く関わるにより個々の障害特性に合ったプランが出来る。
	医療	新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症	個別医療機関が対応できる限界と医療崩壊防止のために計上していただいた補正予算の重要性
	コミュニティ	SDGs推進に向け、区施策との関連性が見える化	SDGsのゴールを使い、杉並区がめざす10年後の姿から逆算し、区各施策の方向性を分かり易く示すため。
社会保障	年金・医療・介護に子育て支援を加えた全世代型社会保障の推進	経済的、社会的理由による分断と格差を生み出さない包摂社会が、ポストコロナの時代に求められているため。	
環境	脱炭素社会の実現	パリ協定がめざす地球温暖化対策を、基礎的自治体で住民と協働し行動に移すことは、これからのコミュニティ形成に重要であるから。	

部会	分野	キーワード	その理由
2	環境	気候変動	気候変動は世界的な課題であり、省エネ、再生可能エネルギーの普及や緑地の保全・創出を着実に推進する必要がある。
	環境	健全な水循環	洪水の緩和や豊かな水辺環境の再生のためには区内の健全な水循環の再生が不可欠である。
	環境	生物多様性	「杉並区みどりの基本計画」で述べられている「連続した緑の保全・創出」や「自然生態系保全の取組」を着実に推進する必要がある。
	福祉	LGBTQ	渋谷区のパートナーシップ制度のように、性的なダイバーシティを受け容れる社会づくりを表明する必要があると感じたため。
	環境	事業者のエコインセンティブ	区内の事業者や店舗において、ゴミ出しや空調の管理、排水の削減などにより環境に配慮した事業者に補助金等のインセンティブを与える事ができないか。一般住民の意識啓発にもつながると思った。
	医療・福祉	在宅診療	在宅の老人に電話診療を行ったり、産婦人科に行きづらい女の子が気軽にオンラインで医師に相談したり、何らかの事情で病院へ行きにくい人々が在宅診療・相談できるシステムを拡充すべきと思ったため。
	医療	おくすり手帳・通院記録管理の厳重化	病院でアルバイトをしていたとき、複数の病院を周り薬の重複処方を受け、保険で安く手に入れている人が多くいて、問題だと思った。杉並区ミンはホームドクター制度を設けて特別な事情がない限り区内の医療に係るようにするなどして、通院記録を管理することでより必要な人に医療補助が回るのではないかと思う。
	コミュニティ	ベビーシッターコミュニティの支援	働く女性が増えたり、コロナの影響などで母親に負担がかかり、産業・育児うつになる人も多いと聞く。一般人が区の設ける研修などを受けて、アルバイトのようにベビーシッターをする事ができるコミュニティを作れたら良いと思う。
	コミュニティ	ベンチャー企業誘致	杉並区を本拠地にするベンチャー、上場企業を増やす取り組みを行う。区民データの提供なども同時に整備
	健康	民間企業との連携	区民データの提供により、健康増進対策含めての民間企業との連携および支援。
	環境	ワーキングスペースの確保	図書館スペースの区民利用の促進および、ワーキングスペースとしての整備

部会	分野	キーワード	その理由
3	子ども	人生100年時代	人生100年を生き抜くための力が問われている。子どもが主役になる社会のあり方を考える必要あり。
	学び	AIと生体認証	AIと生体認証技術の発達で、人間のあり方が問われている。主体的に生きることを問い返す必要あり。
	学び	学び直し・生涯学習	社会のあらゆる場面で、学び直しが問われている。新しい日常をつくるためにも、学び直しのあり方を検討する必要あり。
	文化 まちづくり	町並と防災	狭い道路に木造家屋が並ぶ。防災上望ましくない町というのは、だいたい歩いていて、おもしろい。その辺の矛盾について論じたい。
	文化 まちづくり	新道と緑地	中杉通りの延伸は本当に必要なのか？延伸する場合、善福寺川緑地との構造をどのようにするかなどについて（資料20-2）
	文化 スポーツ まちづくり	自転車路の整備	増える自転車の安全対策 緑地公園内のサイクリングコースなどあいまいな区間が多い。
	文化	市の施設のインターネット光化	市の全ての施設で、無料の光wi-fiを使えると助かる。特に、配信を考えてホールやリハーサル室。
	学び	学年横断でのアクティビティ	クラスだけのアクティビティだと、知らないうちにいじめの種ができてしまう可能性があるため。
	スポーツ	学校を中心に地域に根付いたスポーツクラブを作る	日本には、欧米のように地域が中心となって、子供から大人まで参加できるスポーツクラブが少ないから。
	子供	子供の基礎体力向上	運動をする子供としない子供の基礎体力の差が広がっており何らかの対応策が必要だと考えるため。
	スポーツ	スポーツの力の活用	競技、生涯、健康、障害者、学校等のスポーツのとらえ方が変化しており今後の活用について考えたい。
	文化	スポーツ文化の定着	スポーツと文化の融合が両者の更なる発展と区民の活性化につながると考えるため。
	学び	地域の教育力	杉並区は「地域運営学校」「ICT教育」「小中一貫教育」「特別支援教育」等の様々な取組により理想とする教育環境に近づいてはいるが、地域の教育力という観点で見ると受け身の大人が多いと感じる。子どもたちの主体性を育む為には先ず大人が手本となるべきだが、多様な生活環境の中で、その実践は何かと課題である。
	学び	取組の連動と可視化	教育についての取組は様々だが、それぞれの連動性をもっと可視化し、誰もが理解しやすいものが有れば良いと思う。
	子ども	子どもの貧困の解消	子どもの貧困が社会問題となっています。生まれた家庭の財政力によって、子どもの生活や成長に影響が出ないよう、行政としての様々な支援策が必要だと考えます。
	こども	子どもの居場所	新型コロナウイルス感染症だけでなく、今後も様々な新たな感染症が発生することが予想されます。現在の杉並区は、小中学校、児童館、学童クラブなどの子どもたちの居場所が大規模化し、詰込み状態となっています。感染症への対策としても、子どもたちの居場所の質を向上させるためにも、少人数の集団に教員や指導員をなるべく多く配置することが必要だと考えます。
	文化・スポーツ	文化・スポーツの場	文化やスポーツをはぐくむには人々が集う場の確保が必要です。杉並区がその場を提供することは多くの区民が望んでおり、区立施設の在り方が問われていると考えます。施設の使用料の問題、配置、機能の問題など、個人の財政力や居住する地域によって格差が生まれないよう場の整備、施設の整備を進めることが必要と考えます。
	子ども・学び	公教育の役割	義務教育及び就学前教育においては、認知能力だけでなく非認知能力の育成が大切であると考えられるため。
子ども、学び	ナナメの関係 (学校等と地域等との連携)	子どもの成長にとって、多様な関係性をつくることが重要であると考えられるため。	
スポーツ、文化	学校施設等のさらなる有効活用	身近な場での活動拠点確保が重要であると考えられるため。	

部会	分野	キーワード	その理由
3	子ども	子どもの貧困	子どもが生まれ育った環境に関係なく、学び、夢を描ける社会を作る必要があると考えるため。
	学び	次世代育成基金	子どもが自分一人ではできない体験をして視野を広げる機会であると考えため。
	スポーツ	生涯スポーツの推進	生涯スポーツの環境を整備し、推進することは、区民の健康維持や孤立化防止、医療費などの削減につながると考えるため。
	文化	区の歴史や文化の認知。わたしの「ふるさと」プロジェクト	区民個人が郷土愛を抱くことで他県への「ふるさと納税」が減る。アニメで似顔絵返戻など。
	教育	小学校教師の社会的地位向上 先生のユーザ／先生アワード	教師が社会地域から畏敬の念を得れば、児童の保護者も教師を尊重するであろう
	学び	病名の無い集団生活に適応出来ない子供たちの居場所	集団に入れない性質、特性の児童が学校以外の場所で学ぶことが出来ない。ホームスクーリング

部会	分野	キーワード	その理由
4	行財政運営	広域連携 自治体間連携 地域循環共生圏	災害時対応、気候変動対策といった多様化・複雑化するリスクに対応していくためには、杉並区のみでは限界があり、方向性や課題認識を共有する他の自治体や主体との連携をより一層強化していく必要があると考えるため。
	行財政運営	政策形成・実践能力の向上	基礎自治体への分権が今後も継続的に進められる中において、杉並区職員には、地域課題の解決に向けて、自治事務・法定受託事務いずれについても、より高い実効性を担保していくための方途を見極め、実践していく能力が求められるため。
	ICT	情報リテラシーの向上	情報の種類や伝達対象に応じた、多様な情報伝達手法を駆使すると同時に、その適正かつ有効な活用方法についてのリテラシー向上を図ることが重要であると考えられるため。
	行政	デジタル&オープン	財務、調達、業務をオープン技術を用いてデジタル化・De-Silo化、データを官民で相互にアクセス可能にし、新規事業創成と効率化を実現。区職員の在宅勤務等による情報収集力の増強と区民サービスの向上。
	行政	民の活力	優秀な専門性を有する シニア人材・民間人材を行政で登用することで、複式簿記化などのデジタルガバナンスを実現・加速する。
	人材	次世代人材	グローバルな視点での Incoming と Outgoing を支援・促進が 杉並区の持続的発展に寄与する。引き籠りでは、発展と成長が期待できない。
	情報	戦略的広報の検証・見直しについて	杉並区が持つ資源をベースにした知名度アップを目的にHPや外部のWebサイトの活用を改めて考えるきっかけになれば良い。現状の広報戦略の検証や見直しにつながればよい。
	子育て	ICT活用における子育て支援	全国的に待機児童が減少する（杉並区はゼロ）中で、特に保育園における保育内容を分析することで、就学支援につながっているかどうか検証する。未来志向の保育実践に向け、ICT導入の可能性を考える。
	協働	「効果検証」「国内外の企業や大学との連携」「収入や地域資源の増加」	現在の協働は活用、参加の機会が不十分。企業の参加が著しく少ない。協働は、社会課題の解決&地域の活性化のいずれにも必要であり、促進すべき
	ICT	「積極的活用」「10年、20年先の技術の進化も視野にいれた街づくり」	10年後にはICTの活用が当たり前になっていると予測するため
	行財政運営	SDG s	区民全体で世界共通言語であるSDG sを共有する必要があるため。
	協働 ICT	シェアリングエコノミー	限られた資源をより有効的に活用が見込めるため。
	協働	少子高齢 人口減少	少子高齢・人口減少により、地域との協働の在り方を見直す必要があるため。
	情報通信技術	ICT等の技術を活用した区民全層を網羅した情報収集と情報発信のインフラ作り	自然災害等を含む緊急情報の地位からの収集、また、区からの正確で迅速な情報提供が区民の安全を守ることになります。その手段としては、ICT技術の活用が鍵を握ります。しかし、CTI技術に対応できない区民層(例えば、スマホ等が使用できない高齢者)に対しては別の手段が必要となります。このように、区民全層を網羅した総合的な仕組み構築が必要と考えます。
	協働	企業との地域活性化(地域創生)につけて施策連携	区として取組む必要のある課題、施策に対して、広く専門知識、技術を要した企業、大学等と連携することで、迅速に、かつ費用をかけた解決策を展開していく。例えば、当方が担当者として実現させた警備会社(株)セノン社との地域活性化包括連携協定、当方が勤務していたあいおいニッセイ同和損保での地域創生活動が参考になると考えます。
	協働	地域の各ネットワークを活用した安心・安全な町づくりの構築	区内の地域コミュニケーションを活用して、区内の全世帯を網羅し、安心・安全な町づくりを構築する。学校支援本部、町内会、地域包括支援センター(ケア24)、商店会等々の組織を活用できないか。地域的、年代層別に網をかけ、全区民を網羅した形で、全区民がなんらかのネットワークに加入し、全員参加型で自らの力で安心・安全な町を構築する。